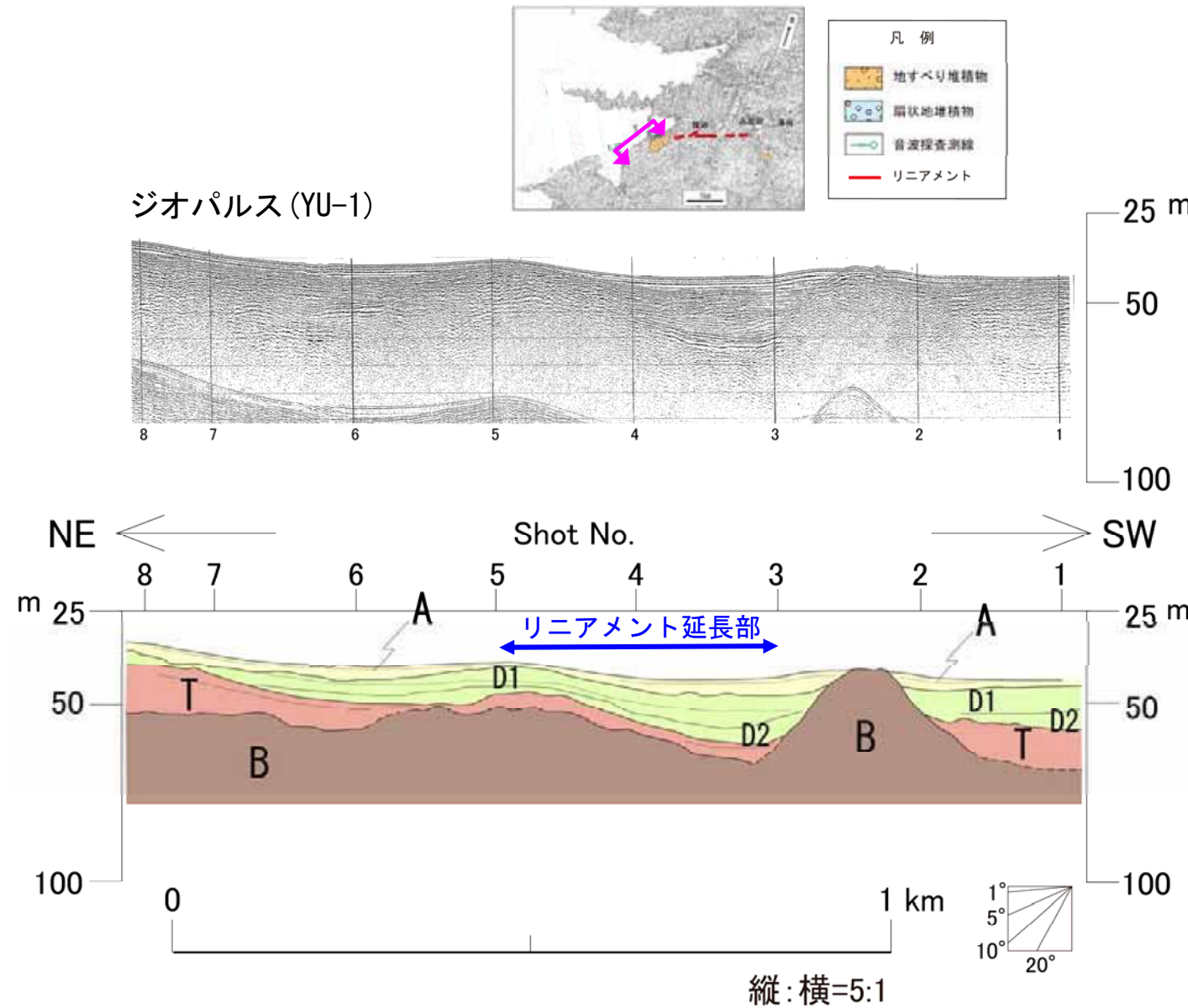


---

## III 6. 五反田断層の評価

# III 6. 1 五反田断層の評価

添付資料 図-96



五反田断層は、「活断層詳細デジタルマップ」（中田高・今泉俊文編，2002）に長さ約2 kmの推定活断層として図示されており，河谷や尾根にやや系統的な右屈曲が認められるが，その西方延長海域での音波探査記録に断層は認められない。

なお，調査の結果，岩質の差を反映した浸食地形と推定されるが，後期更新世の活動性評価に適した堆積層あるいは地形面が存在しないので，耐震設計上考慮する活断層（長さ約2 km）として評価する。



# 引用文献

浅野将人・西嶋輝之・東 一樹・鹿島愛彦・満塩大洗, 1992, 「愛媛県肱川流域に分布するプレ段丘堆積物中のテフラ年代」日本地質学会第99年学術大会講演要旨, 209.

愛媛県, 2000, 「愛媛県活断層調査報告書概要集 - 中央構造線断層帯(愛媛北西部, 石鎚山脈北縁, 讃岐山脈南縁)に関する調査-」.

後藤秀昭, 1996, 「中央構造線活断層系:伊予断層の変位地形」, 活断層研究, 14, 28-38.

後藤秀昭・中田 高, 2000, 「活断層のセグメンテーションと変位速度の分布 - 四国の中央構造線活断層系における検討-」, 月刊地球ノ号外, 31, 182-188.

池田倫治・大野一郎・大野裕記・岡田篤正, 2003, 「四国北西部地域の中央構造線活断層系の地下構造とセグメンテーション」, 地震, 2, 56, 141-155.

池田倫治・大野裕記・長谷川修一・岡田篤正, 2005, 「四国北西部中央構造線活断層系, 米湊断層および本郡断層の地下構造と活動履歴」, 地震, 2, 57, 419-439.

Ikeda, M, S. Toda, S. Kobayashi, Y. Ohno, N. Nishizaka and I. Ohno, 2009, Tectonic model and fault segmentation of the Median Tectonic Line active fault system on Shikoku, Japan, TECTONICS, VOL. 28, TC5006, 1-22.

伊藤谷生・井川 猛・足立幾久・伊勢崎修弘・平田 直・浅沼俊夫・宮内崇裕・松本みどり・高橋通浩・松澤進一・鈴木雅也・石田啓祐・奥池司郎・木村 学・國友孝洋・後藤忠徳・澤田臣啓・竹下 徹・仲谷英夫・長谷川修一・前田卓哉・村田明広・山北 聡・山口和雄・山口 寛, 1996, 「四国中央構造線地下構造の総合物理探査」, 地質学雑誌, 102, 4, 346-360.

地震調査研究推進本部地震調査委員会, 2003, 「中央構造線断層帯(金剛山地東縁-伊予灘)の長期評価について」.

地震調査研究推進本部地震調査委員会, 2005, 「別府-万年山断層帯の長期評価について」.

Kamata, H and K. Kodama, 1999, 「Volcanic history and tectonics of the Southwest Japan Arc」, The Island Arc, 8, 393-403.

活断層研究会編, 1991, 「[新編]日本の活断層-分布図と資料-」.

小池一之・町田 洋編, 2001, 「日本の海成段丘アトラス」.

# 引用文献

国土地理院, 2001, 「沿岸海域基礎調査報告書(伊予長浜地区)」, 国土地理院技術資料D・3-No.72.

熊原康博, 1998, 「四国北西部肱川流域の段丘地形と地殻変動」第四紀研究, 37, 5, 397-409.

増田富士雄, 1997, シーケンス層序学入門, 化石, 63, 32-39

松崎伸一・大野裕記・池田倫治・福島美光, 2003, 「震源分布からみた伊予灘周辺フィリピン海プレートの形状および地震特性」, 地震2, 56, 267-279.

水野清秀, 1996, 「愛媛県野村盆地高位段丘堆積物中の広域テフラ, Ng-1(野村2)火山灰」日本第四紀学会, 第四紀露頭集-日本のテフラ, 72.

中田 高・後藤秀昭, 1998, 「活断層はどこまで割れるのか? -横ずれ断層の分岐形態と縦ずれ分布に着目したセグメント区分モデル-」, 活断層研究, 17, 43-53.

中田 高・今泉俊文編, 2002, 「活断層詳細デジタルマップ」.

七山 太・池田倫治・大塚一広・三浦健一郎・金山清一・小林修二・長谷川 正・杉山雄一・佃 栄吉, 2002, 「伊予灘~佐賀関沖MTL活断層系の広域イメージングとセグメント区分」, 産業技術総合研究所地質調査総合センター, 活断層・古地震研究報告, 2, 141-152.

緒方正虔, 電力中央研究所土木技術研究所, 1975, 「佐田岬半島北岸海域の地質構造-音波探査による海底地質の考察-」, 電力中央研究所報告, 375006.

岡田篤正, 1992, 「中央構造線活断層系の活動区の分割試案」, 地質学論集, 40, 15-30.

岡田篤正, 2006, 「活断層で発生する大地震の連動・連鎖 -中央構造線・濃尾断層系・山陰地域の活断層を事例として-」, 月刊地球/号外, 54, 5-24.

岡田篤正・杉戸信彦, 2006, 「四国中央部の中央構造線活断層帯の地形・地質・地下構造」, 地質学雑誌, 112, 補遺, 117-136.

島崎邦彦・松岡裕美・岡村 眞・千田 昇・中田 高, 2000, 「別府湾の海底活断層分布」, 月刊地球/号外, 28, 79-84.

杉山雄一, 2003, 「活断層情報の現状とその活用法-強震動予測への貢献の観点から-」, 第31回地盤震動シンポジウム, 5-14.

# 引用文献

- 社団法人土木学会 原子力土木委員会 断層活動性分科会, 2003, 「原子力発電所の活断層系評価技術 ―長大活断層系のセグメンテーション―」.
- Taner, M.T., F. Koehler and R.E. Sheriff, 1979, Complex seismic trace analysis, *Geophysics*, 44, 1041– 1063.
- 佃 栄吉, 1996, 「中央構造線活断層系のセグメンテーションと周辺の地質構造」, *テクトニクスと変成作用*, 創文, 250–257.
- 佃 栄吉・寒川 旭・衣笠善博, 1982, 「活構造図, 高知」(50万分の1), 地質調査所.
- Tsutsumi, H and A.Okada, 1996, 「Segmentation and Holocene surface faulting on the Median Tectonic Line, Southwest Japan」, *Journal of Geophysical Research*, 101, B3, 5855–5871.
- 堤 浩之・後藤秀昭, 2006, 「四国の中央構造線断層帯の最新活動に伴う横ずれ変位量分布」, *地震*, 2, 59, 117–132.
- 堤 浩之・戸田 茂・今村朋裕・石山達也・河村知徳・佐藤比呂志・宮内崇裕・加藤 一・隈元 崇・武田麻美・山本彰吾, 2007, 「四国の中央構造線断層帯の浅層反射法地震探査 ―2002年新居浜測線と2003年阿波測線―」, *地震研究所彙報*, 82, 105–117.
- 露口耕治・松岡裕美・岡村 眞, 1996, 「伊予灘における中央構造線系海底活断層の分布とセグメンテーション」, *日本地質学会第103年学術大会講演要旨集*, 364.
- Wallace, L.M., S. Ellis, K. Miyao, S. Miura, J. Beavan and J. Goto, 2009, Enigmatic highly active left-lateral shear zone in southwest Japan explained by aseismic ridge collision, *Geology*, 37, 143–146.
- 渡辺満久, 2005, 「活断層変位地形と推定地下構造」, *地理科学*, 60, 3, 149–159.
- 山下大輔・吉川周作・塚腰 実・長岡信治・熊原康博, 2006, 「愛媛県大洲・内子盆地に分布する下部―中部更新統の層序と編年」, *第四紀研究*, 45, 6, 463–477.
- 吉岡敏和・栗田泰夫・下川浩一・杉山雄一・伏島祐一郎, 産業技術総合研究所地質調査総合センター, 2005, 「全国主要活断層活動確率地図および同説明書」(200万分の1).

# 引用文献

---

由佐悠紀・竹村恵二・北岡豪一・神山孝吉・堀江正治・中川一郎・小林芳正・久保寺 章・須藤靖明・井川 猛・浅田正陽, 1992,「反射法地震探査と重力測定による別府湾の地下構造」, 地震, 2, 45, 199-212.